

日光山の造営・修理に関与した
彫物担当の工匠について

正会員 ○ 伊東 龍一

1、はじめに 日光東照宮・大猷院霊廟等の日光山の建物は、江戸時代に十数度の修理を受けている。これらの修理の多くで彫物工事が行われていた。

本稿では、幕府の工事で彫物を担当した工匠を江戸時代を通して概観するための一助として、東照宮元和造営から文久度修理の間における日光山の工事で彫物担当の工匠としてどのような者が関与していたのかを明らかにする。

造営関係の文書から明らかになった、各度の造・修理に関与した者を整理したのが表-1である。

2、東照宮元和造営から天和度修理までの工匠

寛永度造替では彫物大工の関与が明らかであるが天和度までの工事では彫物大工の関与はみられない。

元和度東照宮造営(1617)には、大工として中井大和守が関与し、彫物には助作・豊後・大仏与右の3名が関与していたことが明らかにされている。この3名はいずれも中井正清配下の者である。

寛永度東照宮造替(1636)では、名前は不明であるが多くの「彫物大工」の関与が明らかで、大工の甲良豊後が彫物大工作料・飯米を大工・木挽の分と共に受けている。

寛文4年(1664)の東照宮修理では、実際に彫物を担当した者は明らかでないが、大工の庄兵衛・権十郎が彫物代金を受けている。

天和3年(1683)の東照宮・大猷院・本坊の修理では、京の七条仏師の直系、大仏師左京法眼康裕が三仏堂の仏像等と共に実際に彫物を修理し、代金を受け取っていた。

3、元禄大修理から宝暦度修理までの工匠

次の東照宮元禄度修理以後の工事では彫物大工の棟梁の関与が明らかである。そして東照宮宝暦度修理までは和泉・高松両家が担当している。

東照宮の元禄大修理の工匠としては、『肯山治家記録』元禄3年3月11日の東照宮柱立の条に「彫物大工

棟梁 岸上加右衛門 同 太郎兵衛」とあって、彫物大工棟梁の岸上加右衛門と岸上太郎兵衛の2名が参加していたことがわかる。

享保16年の大猷院霊廟修理では、勘定帳から彫物大工の高松又八が参加していたことがわかり、彫物大工作料・飯米をまとめて受けているので、やはり彫物大工の棟梁であったと考えられる。

延享元年(1744)の東照宮・大猷院霊廟・本坊修理でも、勘定帳に彫物大工の高松又六と和泉忠兵衛がみられ、宝暦度の東照宮修理(1754)にも、「彫物大工棟梁」の高松又六と和泉忠兵衛が参加している。

ところで両度に関与が認められる和泉家は岸上姓であったとされることを考えると元禄度の岸上加右衛門・太郎兵衛も和泉家につながる者と推定できる。

4、寛政度修理から文久度修理までの工匠

寛政度東照宮修理からは高松家は関与せず、文政14年から天保3年の東照宮修理の1例を除き、和泉家が単独で彫物大工の棟梁を担当したと考えられる。

寛政度東照宮修理(1798)には、陽明門彫物裏墨書により和泉九右衛門義孝が関与していたことはわかる。

以下、文化8年(1816)の東照宮修理には和泉嘉右衛門、文政度東照宮修理には和泉九兵衛、文政14年から天保3年(1831~1832)東照宮修理には和泉九兵衛(良安)と杉村理三郎、天保12年から同13年(1841~1842)の大猷院霊廟修理には和泉九兵衛、嘉永3年(1850)の東照宮修理には和泉小三郎、文久元年(1861)から同3年(1863)の東照宮修理では和泉九兵衛(但馬)が彫物を担当した者として記録に現れる。

なお、杉村理三郎は、武鑑に「唐木御小細工師」としてみえており、本来は唐木細工師であったと考えられる。

5、おわりに

日光山の工事における彫物担当の工匠は表-1の通りである。東照宮寛永造替ではすでに彫物大工の関与

がみられたが、天和度修理以前の工事では大工が担当した可能性が強い例や仏師が修理した例がある。しかし、元禄度以後は彫物大工の棟梁が関与した。宝暦度までは高松・和泉の2家が、寛政度以後文久度までは、杉村理三郎も関与した天保3年度の1例を除き、和泉家が単独でその地位にあった。

注

- 1) 内藤昌「元和創建日光東照宮と中井大和守正清」『大日光』38号 昭和47年5月
- 2) 『東照宮御造営帳』日光東照宮所蔵影写本(『日光市史』史料編 中巻 昭和61年所収)
- 3) 拙稿「日光東照宮の寛文度修理における彫物工事担当の工匠について」『日本建築学会大会学術講演梗概集 昭和63年』
- 4) 拙稿「日光東照宮の天和度修理における彫物工事担当の工匠について」『日本建築学会学術講演梗概集 昭和62年』
- 5) 『仙台藩史料大成 伊達治家記録十四』宝文堂 昭和53年
- 6) 明治大学刑事博物館所蔵内藤家文書『享保十六年 日光御霊屋御修復御入用御勘定帳』
- 7) 福井県立図書館所蔵松平文庫『延享元年 日光御宮御霊屋御本坊御修復御入用御勘定帳』
- 8) 国立史料館所蔵蜂須賀家文書『在国 日光御宮御修復御用留控』
- 9) 「江戸幕府作事方彫物棟梁 和泉家について」『日本建築学会大会学術講演梗概集 昭和60年』
- 10) 『国宝東照宮陽明門同左右袖塀修理工事報告書』昭和49年 千時寛政十年戊午春三月 狩野養川院法印之以図画

- 和泉小三郎吉政 八代 和泉忠兵衛義孝彫刻之
- 11) 国立国会図書館所蔵『日光御彩色御値段』の「文化八辛未年 日光御宮御修復掛御役人名面」。
- 12) 経蔵北面西端の墓股裏墨書(『重要文化財経蔵・鼓樓・鐘樓修理工事報告書』昭和50年)
- 13) 栃木県立図書館所蔵『御宮御修復掛御役人附 文政十四年より天保三年迄 全』『御作事方諸棟梁』未、および陽明門透彫彫刻裏墨書(『国宝東照宮陽明門同左右袖塀修理工事報告書』)
- 14) 国立公文書館内閣文庫所蔵『日光御霊屋御修復諸御用留 全 天保十二年巳年より同十三年迄 水野越前守宅留』
- 15) 東照宮所蔵『修営日記』(『日光東照宮修営史』大正14年)の嘉永3年の修理に「彫物大工 和泉小三郎 弟子米吉・富蔵・源兵衛・清太郎」が関与したとする記述による。
- 16) 栃木県立図書館所蔵『御宮御霊屋諸堂社御本坊向御修復中日記 文久元年酉年正月より 藤田武兵衛』と東照宮所蔵『修営日記』(『日光東照宮修営史』大正14年)の、文久2年の修理に「彫物棟梁 和泉但馬」、文久3年の修理に「彫物方大棟梁 和泉但馬 弟子 定吉・清兵衛・金七・佐吉・平五郎」が参加していたという記述による。
- 17) 天保4年・同14年の武鑑にみられる。実際の工事では、東照宮殿内猫墓股裏刻銘(『国宝 重要文化財東照宮回廊坂下門西浄修理工事報告書』昭和50年)に、
天保二辛卯歲
四月十八日
彫物方 杉村方

とあって、杉村配下の彫物大工が担当しており、彫物大工の棟梁としての杉村の立場は唐木細工に留まっていない。

(東京工業大学 助手)

表一 日光山における幕府直営作事の彫物担当の工匠

| 造営・修理年 | 建物 | 肩書・工匠名 | 典拠 |
|-----------|----------------|----------------------|--|
| 元和3 1617 | 日光東照宮 | 助作・豊後・大仏与右 | 『元和三年巳三月日 日光御作事本社同拝殿本堂水垣かりとのほり物人数帳(中)』 |
| 寛永13 1636 | 日光東照宮 | (甲良豊後) | 『東照宮御造営帳』 |
| 寛文4 1664 | 日光東照宮 | (庄兵衛) | 『辰ノ年 日光東照宮御修復万入用御勘定帳』(明) |
| 天和3 1683 | 日光東照宮・大猷院霊廟・本坊 | 大仏師 左京法眼康裕 | 『貞享元年子七月 日光山御宮方御同方破損御修復方万御入用勘定帳』(明) |
| 元禄3 1690 | 日光東照宮 | 彫物大工棟梁 岸上加右衛門 同 太郎兵衛 | 『青山治家記録』元禄3年3月11日条 |
| 享保16 1731 | 日光大猷院霊廟 | 彫物大工 高松又八 | 『享保十六年 日光御霊屋御修復御入用御勘定帳』(明) |
| 延享元 1744 | 日光東照宮・大猷院霊廟・本坊 | 彫物大工 高松又六 和泉忠兵衛 | 『延享元年 日光御宮御霊屋御本坊御修復御入用勘定目録帳』(福) |
| 宝暦4 1754 | 日光東照宮 | 彫物大工棟梁 高松又六 和泉忠兵衛 | 『在国 日光御宮御修復御用留控』(史) |
| 寛政10 1798 | 日光東照宮 | 彫物方 和泉忠兵衛義孝 | 陽明門東羽目板裏墨書 |
| 文化8 1816 | 日光東照宮 | 和泉嘉右衛門 | 『日光御彩色御値段帳』(国) |
| 文政度 | 日光東照宮 | 和泉九兵衛 | 経蔵墓又裏墨書 |
| 文政14 1831 | 日光東照宮 | 御彫物師 和泉九兵衛 | 『御宮御修復掛御役人附 文政十四年より天保三年迄』(栃) |
| 天保3 1832 | 日光東照宮 | 杉村理三郎 | 陽明門透彫彫刻裏墨書 |
| 天保2 1831 | 日光東照宮 | 和泉九兵衛良安 | 『日光御霊屋御修復諸御用留』(内) |
| 天保12 1841 | 日光大猷院霊廟 | 彫物方 和泉九兵衛 | |
| ~13 1842 | | | |
| 嘉永3 1850 | 日光東照宮 | 彫物大工 和泉小三郎 | 『修営日記』(日) |
| 文久元 1861 | 日光東照宮 | 大棟梁並彫物方 和泉九兵衛 | 『御宮御霊屋并諸堂社御本坊御修復中日記』(栃) |
| 文久2 1862 | 日光東照宮 | 彫物棟梁 和泉但馬 | 『修営日記』 |
| 文久3 1863 | 日光東照宮 | 彫物方大棟梁 和泉但馬 | 『修営日記』(日) |

(中) 中井忠重氏所蔵 (国) 国立国会図書館所蔵
 (明) 明治大学刑事博物館所蔵内藤家文書 (栃) 栃木県立図書館所蔵
 (福) 福井県立図書館所蔵松平文庫 (内) 国立公文書館内閣文庫
 (史) 国立史料館所蔵蜂須賀家文書 (日) 『日光東照宮修営史』大正14年
 ただし、工匠名欄の()は彫物大工作料を受け取っているが、実際に担当したかどうかは不明の者。